

### 教育研究委員会活動報告

現在、教育研究委員会は、楠見孝委員長、遠藤由美副委員長のもと、11名の委員と担当常務理事内田伸子をあわせて14名で、「心理学研究者の学術・研究活動の支援」と「学問知を市民にわかりやすく伝えるための社会貢献活動」を担っております。昨年度は、科学としての心理学の成果を市民に役立てるために、社会に向けて発信・還元する方法、市民の知識を高める方策を検討し、主に二つのプロジェクトを進めてまいりました。

#### (1) 調査小委員会（楠見委員長）

この小委員会は、市民の心理学に関する知識や理解（心理学リテラシー）の現状を把握し、市民や社会は心理学に何を求めているか（ニーズ）を探るための調査を、20～60代の2107人の市民を対象に行いました。18トピック（性格、記憶、教育、発達、犯罪など）において、心理学の知識を「良く知っている」「知っている」と答える人は1～2割で、マスコミが人に及ぼす影響、ストレスや自殺などの原因や防止など、対人場面に関する知識が中心でした。これらの知識の情報源は、対人場面に関しては自分の経験が多く、マスコミの影響やストレス、脳、心理トリックについてはテレビから得ている情報が多いこと；心理学に関する情報を知りたいという方は、対人関係や臨床などの応用領域を中心に、8割の領域で半数以上を占めておりニーズが高いこと；心理学が有用であり、人々の生活を向上させるとの期待が大きいこと；心理学知識テスト（例：「血液型で性格がわかる」などの正誤問題）の結果は、大学での心理学の授業受講が正答率を高めており、マスコミや本など日常的な心理学メディアへの接触だけでは限界があること；心理学への期待は、「災害時の支援」「小中高への相談員の派遣」「マスコミ等の誤った心理学情報の指摘」などニーズが高いこと；市民は科学としての心理学の知識は多いとはいえ、知識へのニーズは、対人関係、臨床などの分野への期待が大きいこと；大学で心理学の学問知を得たかどうか、心理学知識の質を左右することが明らかになりました。今後、市民や高校生などに心理学知識をわかりやすく伝える機会を増やすことが課題になると思われます。

#### (2) 博物館小委員会（遠藤委員長）

2010年度の事業として、ウェブ心理学ミュージアムの開設に向けて準備を進め、2011年3月にホームページ上で公開しました。現在は3個のコンテンツで構成されていますが、閲覧した方々から「わかりやすい」との感想をいただく一方、入り口がわかりにくいとのご指摘があり、この点については改善してまいります。

また、第75回大会で、学会企画シンポジウム「心理学の社会への貢献とは」が開催され、重森委員がアウトリーチの必要性を、遠藤小委員会委員長が心理学ミュージアムの夢と目標を話題提供し、フロアを巻き込んで活発な討論が行われました。ワークショップ「ウェブ心理学ミュージアムの開設に向けて」では、博物館小委員会委員を中心にフロアも交え、おもしろく役立つ心理学ミュージアムのあり方について活発な意見交換がなされました。皆様、ぜひミュージアムのコンテンツを応募してください。心理学ミュージアムと並行して、心理学の歴史資料を収集保存するための「心理学アーカイヴ」を立ち上げてはとの提案もあり、今後検討してまいります。

上の(1)(2)のプロジェクトの他、多くの方に広く心理学知を還元する事業として、今年度から、心理学の最新のトピックを公開シンポジウム・講演会で取り上げ、その内容をわかりやすく解説する叢書を刊行する小委員会も活動を開始しています。また、高校への心理学教育の導入については、2011年8月に学術会議心理学教育分科会と共催した公開シンポジウムで(200名を超える参加者があったが)、活発な議論が展開されました。この議論を通して確認されたことなかで、「各地区で心理学講座開催」「心理学の教科書出版」などを計画しています(来年度以降)。

心理学知を広く還元するための事業の他に、日本の心理学教育の実態調査を行い日本の心理学教育の実情を把握する；日本心理学会として領域の境を越えた研究プロジェクトを立ち上げ、その研究成果をまた広く還元していく；などを計画しており、今後実施していくことを検討しております。

以上ご報告させていただきました。

(教育研究委員会担当常務理事 内田伸子)